

令和5年度病害虫発生予報第5号（8月）

令和5年8月1日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや多い	県全域	7月下旬の葉いもちの発生量は やや多い	+
	紋枯病	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 8月の降水量はほぼ平年並	- ±
	白葉枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	セジロウンカ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並	- ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	トビイロウンカ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	斑点米 カメムシ類	やや多い	県全域	7月下旬の本田での発生量はや や多い 7月下旬の水田畦畔での発生量 はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ + ±
	ツマグロヨコ バイ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	県全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない 予察灯における誘殺数はやや少 ない	- -
	コブノメイガ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い 8月の気温は高い	+ +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 8月の気温は高い	± +

・防除対策

[イネ・いもち病]

一部で発生が多いほ場が見られます。既に葉いもちが上位葉で発生している場合は、穂いもちに移行するおそれがあるので、穂ばらみ期及び穂揃い期にブラシフロアブル（収穫7日前まで）やカスミン液剤（穂揃期まで）などで防除しましょう。

[イネ・ニカメイガ]

7月下旬に県内47地点130ほ場で実施した巡回調査では、ニカメイガの被害株率は1.90%（平年0.72%、前年1.44%）と過去10年間と比較して2番目に高い状況です。特に、収穫が遅い作型で第1世代幼虫による被害が多かったほ場では、被害拡大のおそれがありますのでパダンSG水溶剤やディアナSCなどで防除しましょう。

[イネ・斑点米カメムシ類]

本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

[ダイズ・ハスモンヨトウ]

7月18日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

[ダイズ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

トビイロウンカは、愛知県内では7月下旬までの本田調査において発生を確認しておらず、予察灯においても誘殺されていません。

トビイロウンカの防除適期は、各世代の幼虫期です。日本植物防疫協会提供の海外飛来性害虫飛来予測システムによると、本年の本県への飛来に適した気象条件は6/9、7/1、7/8、7/9、7/10、7/11の計6回ありました。それらの日に本県にトビイロウンカが飛来していると仮定し、第二世代幼虫の発生予測時期について有効積算温度をもとに計算しました（表1）。ほ場におけるトビイロウンカの発生動向、移植時期及び育苗箱施薬による防除の有無などを考慮し、表1を参考に防除を検討してください。

表1 有効積算温度をもとに計算したトビイロウンカの幼虫期の予測時期（8月1日計算）

飛来予測		名古屋	岡崎	新城	豊橋
6月9日 飛来群	第二世代幼虫	7月30日 ～8月10日	8月1日 ～8月13日	8月3日 ～8月15日	8月1日 ～8月12日
7月1日 飛来群	第二世代幼虫	8月16日 ～8月27日	8月18日 ～8月30日	8月20日 ～9月1日	8月18日 ～8月30日
7月9日 飛来群	第二世代幼虫	8月24日 ～9月5日	8月26日 ～9月7日	8月28日 ～9月10日	8月25日 ～9月6日

各地のアメダス平均気温から、有効積算温度計算シミュレーション（日本植物防疫協会）により予測した。7月31日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算した。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の胞子形成量は平年並 ～やや少ない 8月の降水量は平年並	－～± ±
	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	－
	チャノキイロアザミウマ	やが多い	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数はやが多い	± +
ナシ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やが多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の気温は高い	± +
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
モモ	モモハモグリガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
カキ	うどんこ病	少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない	—
	カキノヘタムシガ	平年並	県全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±
	コナカイガラムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	7月下旬のヒノキ林における生息頭数は平年並 7月下旬のヒノキ球果量は平年並	± ±

・防除対策

〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

7月13日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号（カンキツ）」を参考にしてください。また、表2の成虫発生ピークの予測日を参考に防除しましょう。

表2 有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第4世代	7/21	7/21	7/15	7/17	7/21	7/21	7/20	7/20	7/24	7/20	第3世代 7/28
第5世代	8/7	8/7	8/2	8/3	8/8	8/8	8/6	8/6	8/11	8/6	第4世代 8/17
(前年)	8/10	8/10	8/5	8/7	8/11	8/11	8/10	8/9	8/16	8/9	(前年) 8/18
前年差	3日早	3日早	3日早	4日早	3日早	3日早	4日早	3日早	5日早	3日早	前年差 1日早
第6世代	8/23	8/25	8/18	8/19	8/25	8/25	8/23	8/23	8/29	8/23	第5世代 9/9

各地のアメダス平均気温から予測（第4世代から第6世代まで）。7月31日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

※稲武については、第3世代から第5世代までの予測。前年ピーク日と前年差は第4世代。

〔ナシ・ハダニ類〕

多発しているほ場が確認されています。スターマイトフロアブルやカネマイトフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

果樹カメムシ類は現在、越冬世代成虫から新世代成虫への世代交代時期です。今後、果樹園に飛来すると考えられますので、ほ場での発生動向に注意しましょう。詳細は、本日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+
イチゴ	炭疽病	多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 8月の気温は高い	+
野菜共通	ハスモンヨト ウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+

・防除対策

[キャベツ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

[キャベツ・シロイチモジヨトウ]

本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

[イチゴ・炭疽病]

本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考にしてください。

[野菜共通・ハスモンヨトウ]

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。

キャベツでは、セルトレイ育苗時はヨーバルフロアブルなどのかん注処理、定植後はマッチ乳剤やディアナSCなどで防除しましょう。

・留意事項

キャベツのコナガ、ハイマダラノメイガは、今後発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗期には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）を媒介します。これらウイルス病の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、コナジラミ類に効果のある薬剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置しましょう。

イチゴの育苗ほでのハダニ類の発生は平年並ですが、ほ場による差が大きく、発生の多いほ場も見られます。今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗ほでは、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないために、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +
	ハダニ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 8月の気温は高い	+ +

・防除対策

[キク (露地) ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

[キク (露地) ・ハダニ類]

コロマイト水和剤やダブルフェースフロアブルなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行いましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：
<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>) を参照してください。

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台 7月 27日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は高い確率70%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%